

2024年3月期 第2四半期 決算補足説明資料



—やすらぎと安心の創造—

証券コード:5237

| | | |
|----|-----------------------|------|
| 1. | 2024年3月期第2四半期 連結決算の概要 | P.3 |
| 2. | 連結貸借対照表前期末比較 | P.9 |
| 3. | 連結キャッシュ・フローの状況 | P.10 |
| 4. | 連結経営指標（5年間推移） | P.11 |
| 5. | 2024年3月期 連結業績予想 | P.13 |
| 6. | ESG経営への取り組み | P.15 |
| 7. | トピックス | P.18 |

1. 2024年3月期第2四半期 連結決算の概要

1-1 連結損益計算書前年同期比較

| | 2024/3月期 2Q 実績 | | 2023/3月期 2Q 実績 | | 増減 (前年同期実績比) | | 2024年3月期 2Q 8/4発表予想値 | | 増減 (8/4発表予想値比) | |
|----------------------|-------------------|------|-------------------|------|-----------------|--------|-------------------------|------|-------------------|--------|
| | 金額 | 利益率 | 金額 | 利益率 | 金額 | 利益率 | 金額 | 利益率 | 金額 | 利益率 |
| 売上高 | 12,028 | | 10,217 | | +1,811 | | 11,500 | | +528 | |
| 営業利益 | 1,040 | 8.6% | 603 | 5.9% | +436 | +2.7pt | 930 | 8.1% | +110 | +0.5pt |
| 経常利益 | 1,149 | 9.6% | 711 | 7.0% | +437 | +2.6pt | 970 | 8.4% | +179 | +1.2pt |
| 特別利益 | - | - | 1 | - | ▲1 | - | - | - | - | - |
| 特別損失 | 528 | - | 103 | - | +425 | - | 458 | - | +70 | - |
| 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | 320 | 2.7% | 415 | 4.1% | ▲95 | ▲1.4pt | 280 | 2.4% | +40 | +0.3pt |

当第2四半期においては、各国の利上げが続くなか依然としてインフレ圧力が残存し、景気は先行き不透明感を強めて推移しました。こうした物価上昇を背景とした原材料等価格の高騰の継続により、建設材料業界でも厳しい状況が続いております。このような状況のなか、当第2四半期連結累計期間の当社グループの連結業績は、経常利益ベースでは前年同期比増収増益となりました。売上高については押出成形セメント製品の全体的な増販により増収、利益については原材料価格の上昇による原価アップ要因はあるものの、押出成形セメント製品の増販及び価格改定により増益となりました。最終利益については、特別損失に訴訟損失を計上したこと等から前年同期比減益となりました。

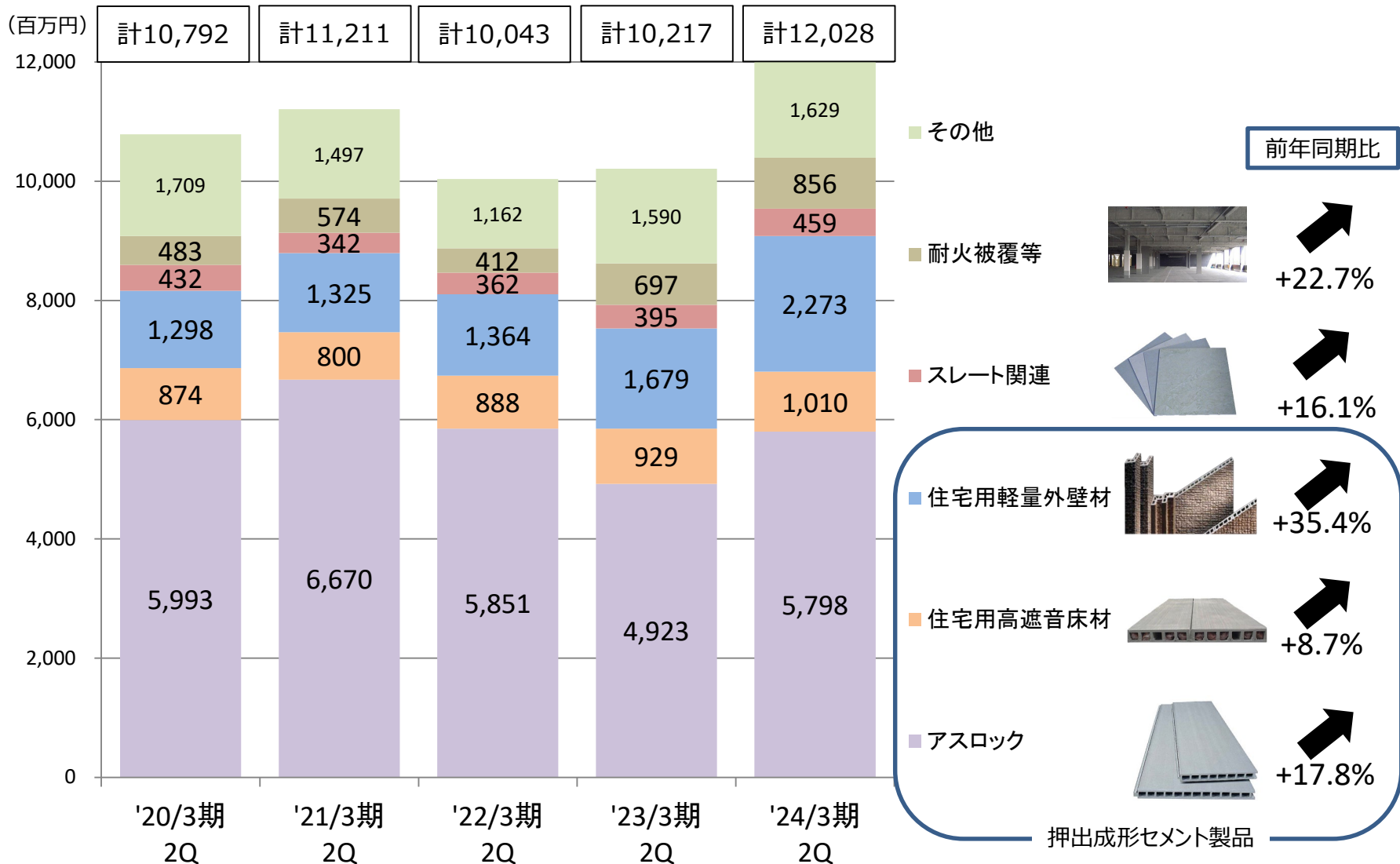
1. 2024年3月期第2四半期 決算概要(前年同期比)

1-2 売上高 [前年同期比18億11百万円増収の120億28百万円]

- 当第2四半期の主力の押出成形セメント板「アスロック」は、コロナウイルス感染症の影響等により前期までは販売が低迷しておりましたが、当期に入り徐々に販売数量が回復してきました。加えて、価格改定が浸透してきたこと、高付加価値品「工場塗装品」が伸長したこと等により、「アスロック」売上高は前年同期比8億75百万円増の57億98百万円となりました。
- 住宅向け商品については、住宅用高遮音床材・住宅用軽量外壁材ともに堅調に推移し、前年同期比増収となりました。住宅用高遮音床材売上高は前年同期比80百万円増の10億10百万円、住宅用軽量外壁材売上高は前年同期比5億94百万円増の22億73百万円となっております。
- 内装用ボードについても、前期に続き「フレキシブルシート素地シリーズ」が伸長したこと等から、スレート関連売上高は前年同期比63百万円増の4億59百万円となりました。
- 工事売上高については、アスロック工事や耐火被覆等工事で増加し、工事売上高全体では前年同期比5億65百万円増加の24億5百万円となりました。
- なお、価格改定の効果については、押出成形セメント製品・ボード合計で、5.5億円の増収の効果がありました。

1. 2024年3月期第2四半期 決算概要(前年同期比)

1-2 売上高 [連結品種別売上高推移]



1. 2024年3月期第2四半期 決算概要(前年同期比)

1-3 各段階利益

[営業利益 前年同期比4億36百万円増益の10億40百万円]

- 当第2四半期における原材料・エネルギー価格は、電力・ガスについては高騰のピーク時と比較すると落ち着きを見せていますが、原材料については上昇の一途で厳しい状況が継続しており、2億円の増加となりました。また、人件費もベースアップを実施したこと等により1.6億円の増加、併せて3.6億円の製造原価増となりましたが、工場でのNNPS(ノザワ・ニュー・プロダクション・システム)改善活動により原材料・エネルギーの有効活用に継続して取り組むとともに、その他のコストダウン効果等により原価アップを2.3億円に留めました。
- 売上総利益は、押出成形セメント製品・スレートボードの販売が堅調に推移し、これらの販売数量増及び価格改定により増益となりました。品種別には、主力のアスロックで4.1億円、住宅向け商品で3.7億円、スレートボード0.7億円、それぞれ増益となり、合計8.5億円の増益となったことから、前年同期比6億18百万円増益の35億7百万円となりました。
- 販管費は、増販による物流費の増加等で前年同期比1億82百万円増の24億67百万円となりましたが、売上高比販管費率については、諸経費節減等により1.9ptダウンの20.5%となっております。
- これらにより、営業利益は前年同期比4億36百万円増益の10億40百万円となり、営業利益率は2.7ポイントアップの8.6%となりました。

1. 2024年3月期第2四半期 決算概要(前年同期比)

1-3 各段階利益

[経常利益 前年同期比4億37百万円増益の11億49百万円]

- 営業外収支は、受取保険金が13百万円減少しましたが受取配当金が12百万円増加したこと、営業外費用が2百万円減少したこと等により、前年同期比1百万円増となりました。
- 経常利益は、前述の営業増益と営業外収支の増減により、前年同期比4億37百万円増益の11億49百万円となり、経常利益率は2.6ポイントアップの9.6%となりました。

[親会社株主に帰属する四半期純利益 前年同期比95百万円減益の3億20百万円]

- 特別損失は、前年同期比4億25百万円増加の5億28百万円となりました。主に訴訟損失3億76百万円の計上があったことによります。
- 税金費用は前年同期比1億6百万円増加の2億99百万円となりました。経常増益となったものの、上記のとおり特別損失の計上があったことで、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比95百万円減益となる3億20百万円となりました。

1. 2024年3月期第2四半期 決算概要(予想比)

8月4日に公表した業績予想と比較すると増収増益となりました。

【売上高 予想比5億28百万円増収】

- 「アスロック」をはじめとした押出成形セメント製品の販売数量が堅調に推移したこと等から、押出成形セメント製品売上高が4億73百万円増収となったこと等によります。

【営業利益 予想比1億10百万円増益】

- 上記のとおり押出成形セメント製品が販売増となったこと等により、売上総利益2億36百万円の増益となりました。
- 販管費は、販売増により物流費が増加したこと等から予想比1億26百万円の増加となり、上記の売上総利益の増益と合わせ、営業利益は予想比1億10百万円増益となりました。

【経常利益 予想比1億79百万円増益】

- 受取保険金46百万円を計上したこと等から、営業外収支は予想比69百万円好転しました。上記の営業増益と合わせ、経常利益は予想比1億79百万円の増益となりました。

【親会社株主に帰属する四半期純利益 予想比40百万円増益】

- 上記のとおり経常増益となりましたが、特別損失の固定資産除却損が59百万円増加したこと等から増益幅が減少しました。税金費用と合わせ、親会社に帰属する四半期純利益は予想比40百万円増益の3億20百万円となりました。

2. 連結貸借対照表前期末比較

| | | (百万円) | |
|-------------|--------|---------------|--------|
| 科目 | 増減額 | 科目 | 増減額 |
| 流動資産 | | 流動負債 | |
| 現金及び預金 | +19 | 支払手形及び買掛金 | +577 |
| 受取手形売掛金契約資産 | +473 | 未払法人税等 | +85 |
| 棚卸資産 | | 賞与引当金 | +30 |
| 商品及び製品 | ▲48 | その他 | +143 |
| 原材料及び貯蔵品 | +14 | 計 | +837 |
| 未成工事支出金 | ▲9 | 固定負債 | |
| その他 | +102 | 退職給付に係る負債 | ▲32 |
| 計 | +553 | 訴訟損失引当金 | +328 |
| 固定資産 | | その他 | ▲18 |
| 有形固定資産 | +256 | 計 | +277 |
| 無形固定資産 | +4 | 負債計 | +1,114 |
| 投資有価証券 | +512 | 純資産 | |
| その他 | +134 | 資本剰余金 | +19 |
| 計 | +908 | 利益剰余金 | ▲78 |
| | | 自己株式 | +23 |
| | | その他有価証券評価差額金 | +352 |
| | | 為替換算調整勘定 | +1 |
| | | 退職給付に係る調整累計額 | +28 |
| | | 純資産計 | +346 |
| 資産計 | +1,461 | 負債純資産計 | +1,461 |

【総資産の増減】

総資産は前期末比14億61百万円増加。主に受取手形、売掛金及び契約資産が4億73百万円、有形固定資産が2億56百万円、投資有価証券が5億12百万円それぞれ増加したこと等によります。

【負債の増減】

負債は前期末比11億14百万円増加。主に支払手形及び買掛金が5億77百万円増加、訴訟損失引当金が3億28百万円、それぞれ増加したこと等によります。

【純資産の増減】

純資産は前期末比3億46百万円増加。主に利益剰余金が78百万円減少した一方、その他有価証券評価差額金が3億52百万円増加したこと等によります。

3. 連結キャッシュ・フローの状況

- 営業キャッシュ・フローは+8.7億円、投資キャッシュ・フローは▲4.4億円となり、フリーキャッシュ・フローは+4.2億円。財務キャッシュ・フローは▲4.0億円。
- 上記の結果、当第2四半期末の現金及び現金同等物は前期末比0.1億円増加の70.1億円。

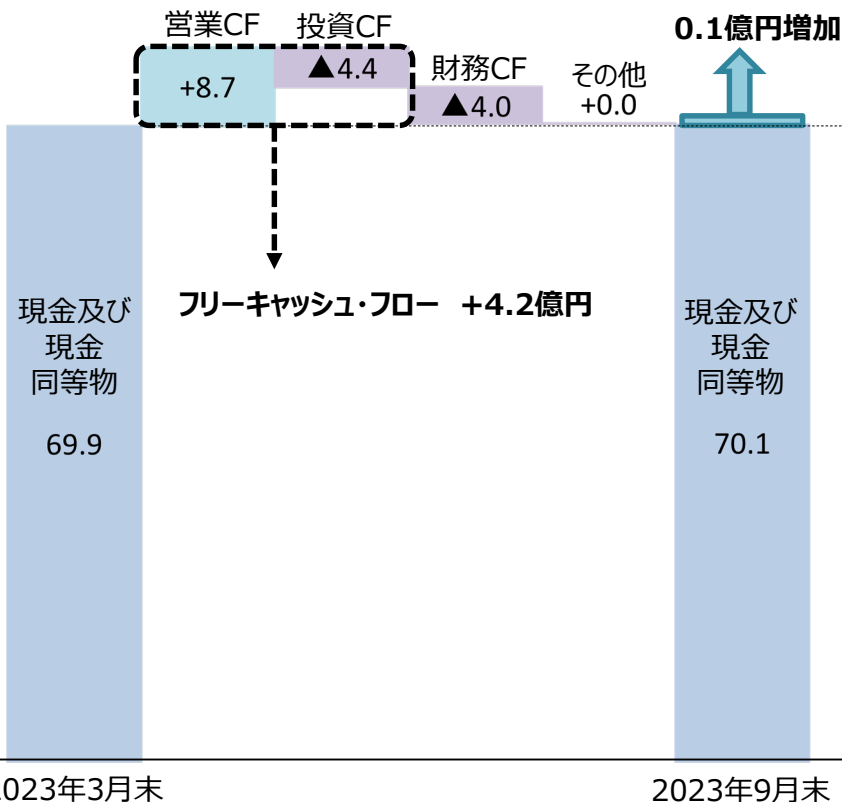
【現金及び現金同等物の増減内訳】

(億円)

【連結キャッシュ・フロー計算書 概要】

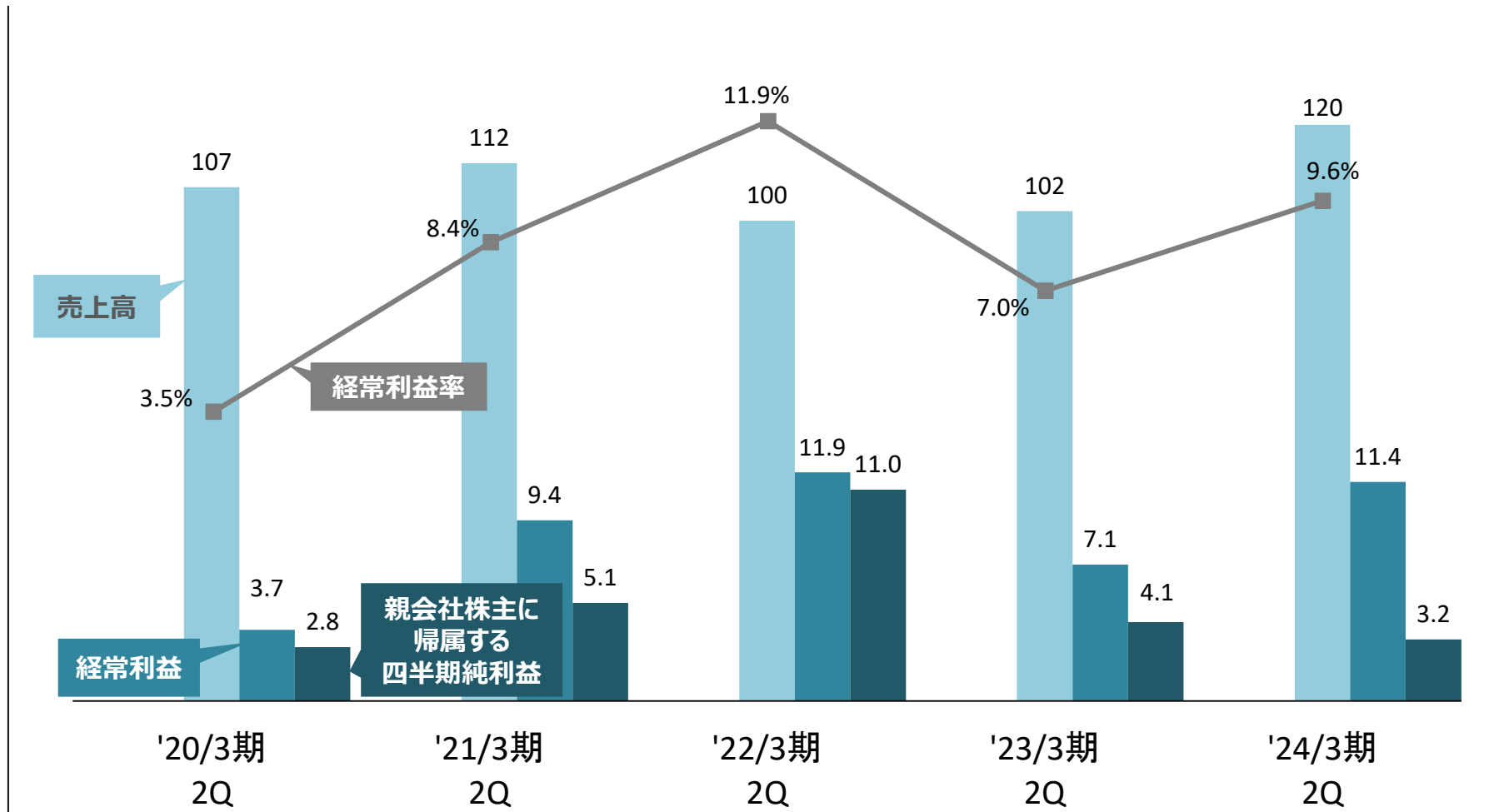
(百万円)

| 項目 | 金額 | 備考 |
|-------------------|------|-------------|
| 税金等調整前当期純利益 | 620 | |
| 減価償却費 | 348 | |
| 訴訟損失引当金の増減額 | 328 | |
| 売上債権の増減額 | ▲551 | |
| 棚卸資産の増減額 | 43 | |
| 仕入債務の増減額 | 682 | |
| その他 | ▲599 | |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー計 | 872 | |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | ▲448 | 主に有形固定資産の取得 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | ▲405 | 主に配当金の支払い |



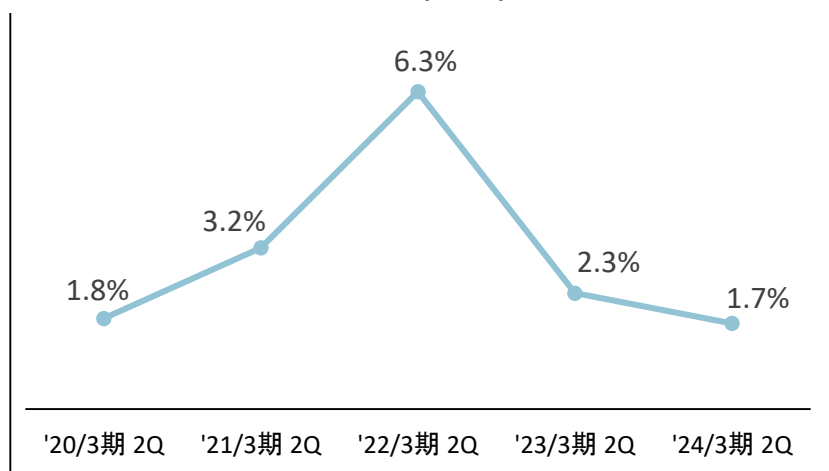
4. 連結経営指標推移 (第2四半期)

売上高、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益 (億円) 並びに経常利益率

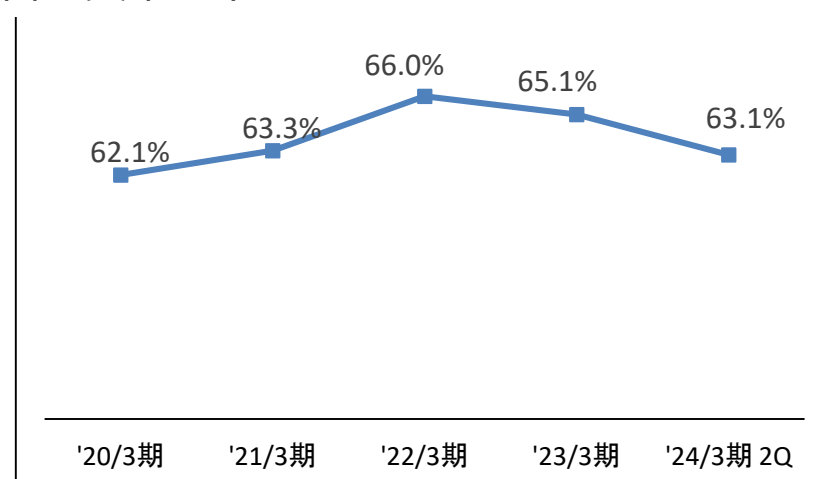


4. 連結経営指標推移 (第2四半期)

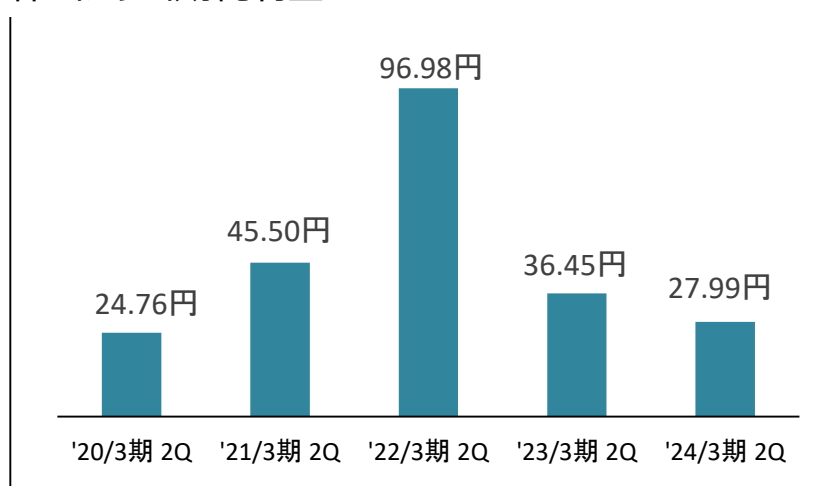
自己資本当期純利益率(ROE)



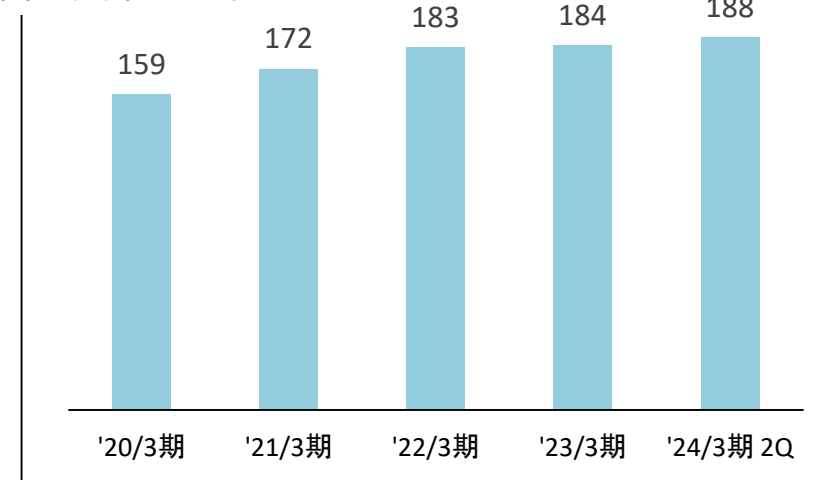
自己資本比率



1株当たり当期純利益



自己資本 (億円)



5. 2024年3月期 連結業績予想

(金額:百万円)

| | 2024年3月期 予想値 | | 2023年3月期 実績 | | 増減 (2023年3月期実績比) | |
|---------------------|-----------------|------|----------------|------|---------------------|--------|
| | 金額 | 利益率 | 金額 | 利益率 | 金額 | 利益率 |
| 売上高 | 23,500 | | 20,975 | | +2,524 | |
| 営業利益 | 1,930 | 8.2% | 1,007 | 4.8% | +922 | +3.4pt |
| 経常利益 | 1,980 | 8.4% | 1,147 | 5.5% | +832 | +2.9pt |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 930 | 4.0% | 486 | 2.3% | +443 | +1.7pt |

通期の連結業績予想につきましては、現時点では2023年8月4日に公表いたしました業績予想から変更ありません。売上高及び各段階利益とも前期比増収増益となると見込んでおります。

5. 2024年3月期 連結業績予想

【通期業績予想は現在公表値を据え置く】

- 第2四半期売上高は前期低迷していたアスロック販売が徐々に回復し、予想値より上振れする結果となりました。下期のアスロック販売につきましても、前年同期を超える水準で推移するものと見ており、住宅向け商品などその他の販売口売上高につきましても、堅調を維持すると見込まれます。
一方、工事売上高については受注減少による下振れが懸念されるため、これらのことから連結売上高は8月4日公表の連結業績予想を据え置いております。
- 利益面では、下期も押出成形セメント製品の販売増や価格改定による増益が見込まれますが、円安や原油相場の先行き不透明感から、原材料・エネルギー価格のさらなる上昇等、原価の悪化懸念が存在するため、通期の営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益につきましても、現時点では8月4日公表の連結業績予想から変更しておりません。
- 売上高及び各段階利益ともに前期比増収増益となると見込んでおります。

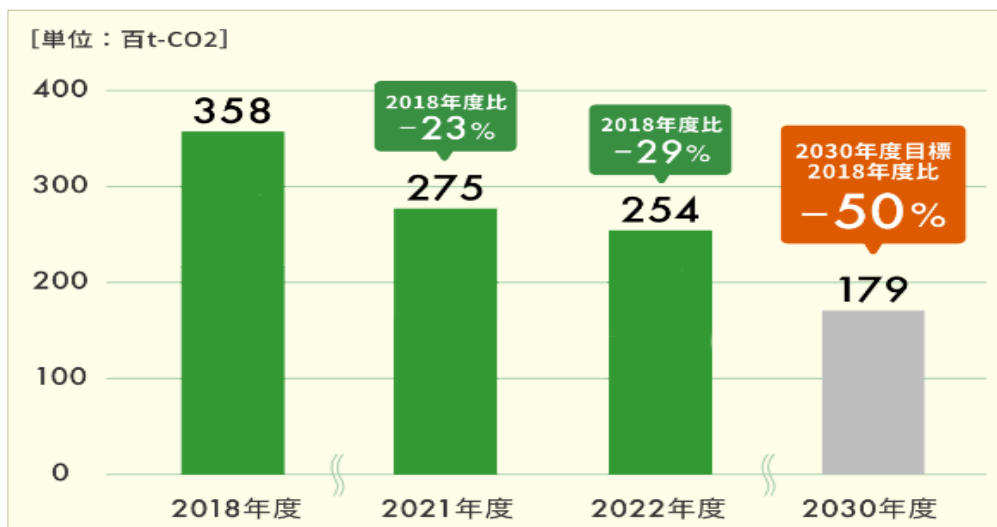
6. ESG経営への取り組み



－ カーボンニュートラルの実現 －

温室効果ガス排出削減目標に対する進捗状況

当社は、2022年12月にSBTイニシアティブの認定を取得し、2030年度温室効果ガス削減**目標2018年度比50%削減**に向け、2022年度は温室効果ガス排出量を2018年度比29%削減、2030年度目標に対して目標達成率58%となり、順調に排出量を削減しています。

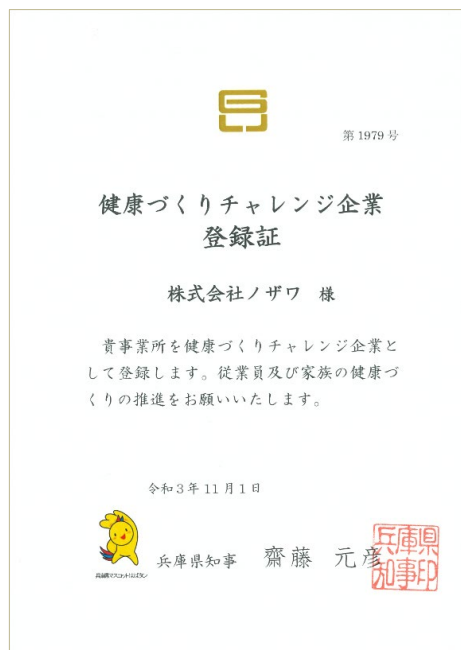


6. ESG経営への取り組み



－ 健康への取り組み－

「健康づくりチャレンジ企業」への取り組み



当社は、従業員や家族の健康づくりのため、「健康づくりチャレンジ企業」に登録しております。

社員のがん検診の受診促進や、朝礼時の体操実施、生活習慣病等の予防などに取り組んでいます。

6. ESG経営への取り組み



—コーポレートガバナンス・コードの遵守—

コーポレートガバナンス・コード

コンプライ比率アップ

持続的な企業価値の向上を目指し、コーポレートガバナンスの強化に取り組んでいます。

当社は、コーポレート・ガバナンスの強化を図ることが重要な経営課題であると考えております。

2023年には、補充原則4-11(1)「取締役会の全体としての知識・経験・能力のバランス、多様性及び規模に関する考え方並びに取締役候補者の選任に関する方針・手続」についてコンプライしました。

7. トピックスーサステナビリティへの取り組み

サステナビリティに関する考え方

当社グループは「人々の生活と安全を守り、快適な住環境を創り出す部材とシステムを提供し、社会の発展に貢献する企業をめざす」及び「社員一人・一人の人間性を尊重し、働きがいのある明るい職場を作り、個々の能力向上を図る」の理念のもと、サプライチェーン全体における環境負荷低減に取り組むとともに、環境保全に貢献する技術開発と商品の提供を通じて、人々にやすらぎと安心を提供し、持続可能な社会の実現に努めております。また、中期経営計画では、経営基盤の強化と事業の更なる発展を図るため、常に新しいことを追求、「**全社 三大戦略プラスONE**」を展開し、取り組んでおります。

サステナビリティページURL <https://www.nozawa-kobe.co.jp/sustainability/index.html>



The image displays three screenshots of the Nozawa Sustainability website. The left screenshot shows the 'Sustainability Overview' page with sections for 'Sustainability Overview', 'Environmental Management Policy', 'ESG Management Approach', and 'Social Contribution'. The middle screenshot shows the 'Greenhouse Gas Emissions Reduction Progress' page, featuring a bar chart of Scope 1 & 2 emissions and a 'Science Based Targets' logo. The right screenshot shows the 'Social Contribution' page, detailing community activities and a photo of a speaker.

| Year | 2018 | 2021 | 2022 | 2030 Target |
|--------|------|------|------|--------------------------|
| 2018年度 | 358 | | | |
| 2021年度 | 145 | 275 | | |
| 2022年度 | 119 | 254 | 113 | |
| 2030年度 | 156 | 141 | 179 | ~50% reduction from 2018 |

7. トピックス-動画で知るノザワ

動画で知るノザワのご紹介

当社の事をもっと知っていただくため、会社概要や歴史、製品、社会貢献活動等について動画を織り交ぜながら紹介しています。ぜひご覧ください。



URL <https://www.nozawa-kobe.co.jp/rct/>



1970年(昭和45年) 世界初の量産化に成功し商品化決定 9月24日にプレスリリース

商品名はこれにしよう!

A-7 (イーセブン)
A - Seven - Block
A - S - loc
↓
Asloc

◆ ノザワの歩み
～常に新しいことを追求～

旧居留地と十五番館

ダラス・フィン女史に再建することを返信

ワシントンDCにあるアメリカ国立公文書館所蔵の明治時代の十五番館の写真が送られてきました。日本に存在しなかった貴重な写真でした。

この写真をもとに外観の復旧を進め、門扉と木の柵が再現されました。これが現在の建物が明治時代に一番似ている理由です。

◆ 創業来の遺伝子

常に新しいことを

オリジナル

差別化

進化

オンリーワン

すべての分野で他社の一步前を走る

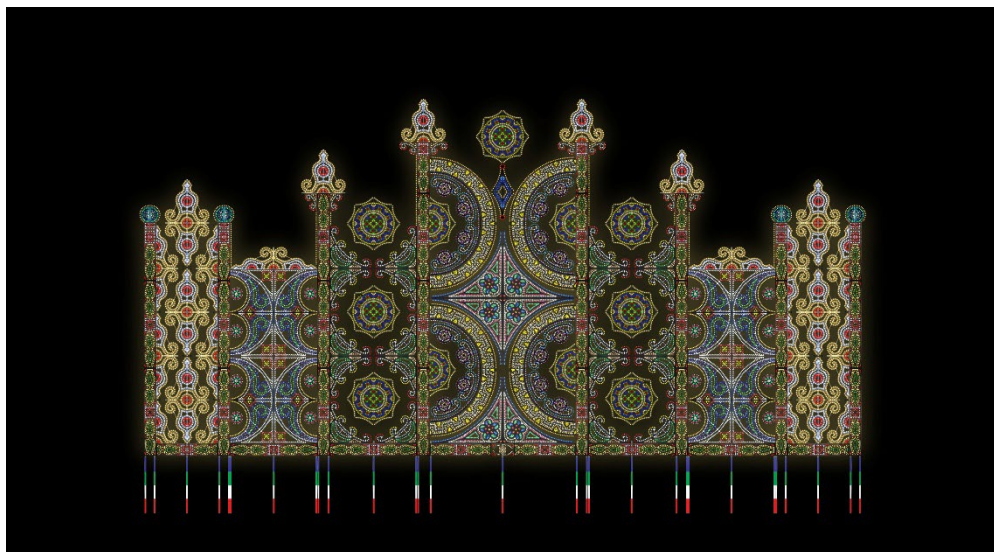
「常に新しい」現在あるものは進化させて、すべての分野で他社の一步前を走り続けるということです。

7. トピックスー社会貢献活動

「第29回神戸ルミナリエ」に協賛

2024年1月に開催されることが決定した「神戸ルミナリエ」に協賛いたしました。
また、今回は「神戸ルミナリエ」の作品を展示するために、当社本社ビル「15番館」の公開空地を提供します。
今後も、阪神淡路大震災の復興を祈願した「神戸ルミナリエ」を応援してまいります。

神戸ルミナリエ開催期間：2024年1月19日(金)～1月28日(日)



©Kobe Luminarie O.C.

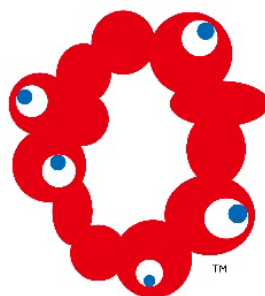
7 . トピックスー社会貢献活動

Expo2025 大阪・関西万博への寄附

2025年日本国際博覧会は「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、世界中から「いのち輝く未来社会」への取り組みを持ち寄り、未来への希望を世界に示す新しい万博を目指しています。

当社は、この「Expo2025 大阪・関西万博」を応援し、博覧会建設に対する寄附を行っております。

また、大阪・関西万博の応援の一環として、売上の一部が大阪・関西万博への寄附となるコカ・コーラボトラーズジャパン株式会社の支援型自動販売機を当社本社に設置しました。



OSAKA, KANSAI, JAPAN
EXPO2025

©Expo 2025

株式会社ノザワは、大阪・関西万博を応援しています。

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後さまざまな要因によって大きく異なる可能性があります。

また、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。